

# 創造



No.  
43

# 「美しい小村は地域の宝物」

エッセイ

多摩大学大学院教授

望月照彦



## 創造 No. 43

- エッセイ ..... 3  
望月照彦氏（多摩大学大学院教授）
- 第10回「立山倶楽部」会議 ..... 4
- 高校生のための講演会 ..... 6
- 「夢の卵」育成事業 ..... 8
- 展示施設リニューアルオープン ..... 9
- 事業概要 ..... 10
- 富山県教育記念館展示スケジュール ..... 11

「スモール イズ ビューティフル」という言葉が好きだ。この言葉はイギリスの経済人類学者のシューマッハーが語ったものであるが、言葉通り美しい響きがある。平成の大合併が行われ大きな市域が生まれているが、一方で小さな村や町の存在も大切にしていける時代が来たと思う。アメリカで、その小さな村や町を愛する一冊の本がある。「アメリカの素敵な一〇〇の小さなタウン」(The 100 Best Small Towns in America) というノーマン・克蘭プトンが編集したものである。一九九〇年代の始め頃から毎年出されているものであるが、多くの小村フアンの意見を聞いてその年の人気のある一〇〇の村や町を選出してリストを作る。都会に暮らす人々が、休暇が取れるとその本を広げて、今度はどの村を訪れようかと家族中で提案し議論する。選出のための幾つかの条件がある。自然環境は整っているか、安全か、若い人々もちゃんと村に残っているか、教育機関や教会が存在しているか、新聞など情報もあるか、などであるがどうも最大の条件は「良き隣人に恵まれているか」であるようだ。都会の失われたコミュニティを、自然と一緒小村で味わおうというも

のであろう。巨大でストレスに満ちた都会が増えれば、ますます逆に心を癒す小村の存在は貴重だ。小村を愛するのはアメリカだけでなく、イギリス、ドイツなどのヨーロッパの国々も負けてはいない。フランスでは「フランスの最も美しい村々」という協会があつて、一九八二年から観光村おこしを一つの大きなテーマとして全国的な活動をしている。克蘭プトンの出版より早いから、こちらが先輩である。現在この協会には一四四の小村が加盟している。やはり条件がある。人口が二千人未満であること、認定された史跡建造物や風致地区があること、家並み景観が均質で調和していること、村全体の美観への努力、道路網の整備、宿泊や案内など観光客の受け入れ態勢が整っていることなどがそれである。最近、フランスで異色の写真家として活躍している辻啓一氏が「フランスの『美しい村』を訪ねて」という本を書いて、これらの村々を紹介している。その本を眺めていて、私も以前訪れた村の幾つかが載っている、とても懐かしい気持ちが出た。実は私も、そんな協会がフランスにあることは知らなかったが、パリに滞在するたびに国鉄郊外線に乗って

近郊の町や村々を訪ね歩いたことがあった。それには立派な手本があつた。富山県にも関係の深い木村尚三郎先生が一九八三年に書かれた「カール・オールの酒壺―歴史へのひとり旅―」という本があつて、やはりフランスの地方の田舎町や村を紹介しているのだ。西政中世史を専門にしていた木村先生は、一九六九年からプロヴァンスのエクス・アン・プロヴァンスでこそエクス・アン・プロヴァンスも日本でよく知られるようになったが、当時パリ以外はほとんどの日本人の頭の中にはない時代だから、着いた早々からミストラル(季節風)に見舞われた木村先生は、とんでもないところに来てしまった後悔に暮れたという。そんな気持ちもあつたか、貧乏学生にもかかわらずよくフランスの地方を旅した。エクスに身を置いてパリを訪ねるのは御上りさんである。パリを拠点にして地方を巡るのは違う感慨があるだろう。この本には、小さな旅の記録だけではない木村先生の情けないひとり旅の哀愁のようなものが滲み出ている、たくさんある著作の中でも私には好きな一冊である。そしてこの本に出てくる小村を私もぜひ訪れてみたいという思いが募っていったのだ。そ

れ以降、フランスを訪れるたび、「カール・オールの酒壺」を携えて小村巡りに精を出すことになった。日本に帰ってもその癖はなくならないから、今度は日本の小村や町巡りが楽しみになった。しかし、日本の村や町は今や合併の対象になり、中山間地などという言葉は寂寥と凋落の代名詞となっている。

富山県には、小さいけれどもたくさん美しい村や町が残されている。二十一世紀は強大な文明都市の時代ではなく、小さく優しい小村の時代である。「小村立県・富山」、県民の多くが胸を張って言えるような時代を、私はイメージしているのだ。

### 望月照彦(もちづき てるひこ)

昭和十八年静岡県清水市(現静岡市)生まれ。日本大学理工学部建築学科卒。同大学院卒業。民間ディベロッパー、シンクタンクを経て、ベンチャービジネスを数社立ち上げる。現在、多摩大学大学院教授。法政大学大学院、静岡文化芸術大学講師を兼任。望月照彦研究所代表。

著書「地域創造と産業・文化政策」(ぎょうせい)「都市民俗学講座」(未來社)など多数。



## 第10回

# 「立山倶楽部」会議

開催  
テーマ

## 「とやまの文化力を高める」

平成 16 年 9 月 29 日 (水)  
富山全日空ホテル ASUKA

国際的に活躍しておられる方々から、未来への洞察、世界の潮流、人間のあり方などについて、自由かつ率直な意見を交換していただくための交流の場として、平成 6 年度から「立山倶楽部」会議を開催しています。

今回は、富山県の持つ「ものづくり」の力や観光資源などを生かし、文化を発信するにはどうすればいいか、国際的な視点も交えて意見交換を行いました。

### テーマ設定の趣旨



代表世話人  
木村尚三郎 氏  
東京大学名誉教授

二十一世紀最大の産業は信息产业だと言われている。科学技術、経済のグローバルイズムが進めば進むほど、土地ごとの生きる知恵や楽しさが観光の目的になる。二十一世紀はそういう文化力が問われ、技術や経済に大きく反映されてくる。これから、とやまの文化力を世界に向け、いかに高めていくかが大きな課題である。

### 出席者の意見



吉田 忠裕 氏  
YKK(株)  
代表取締役会長兼社長

- ヨーロッパなどでは街のマスタープランがきちっとつくられていて、百年単位の時間をかけ、行政も一般市民も同じ情報を持って動き、それを誇りに思っている。
- 黒部の街づくりに関わってきたが、街をどういうマスタープランの中で作る

ていくかとなると難しい。次の世代へとつないでいくには、かなりクリアな目標設定が必要。

●これから新しい時代を乗り越えていかなければいけない、と考える人が富山に必要。設備投資だけではなく、人の教育に投資をしなければならぬ。

●英語と中国語の二ヶ国語は基軸の外国語になる。富山県が国際社会に情報発信するとなると、言葉というツールも重要。



金田 章裕 氏  
京都大学理事・副学長

- 景観が文化の重要な一つの要素。その地域で好ましいと思われてきたものが長い間の「ろ過」を経て出来上がっていくのが現状の景観。それがその地域にとって一番重要なことである。
- ヨーロッパの景観を大事にしているところでは、好ましい景観をよりきちんとつくっていく努力を盛んにしている。その背景には、建物の本身は個人のものだが、外見は共有のものという考え方があがる。
- 富山県の景観条例には地域協定が入っており、日本で最も優れた景観条例。

黒親が持つ意味はどういうものかを全体で考えてもらうことが重要。

●富山県の住環境は世界的に誇るべきもの。全体の黒親を考え、よりよく展開させることを考えれば、富山県の特つ潜在能力がもっと有効に展開するのである。



佐藤 陽子 氏

バイオリニスト・声楽家

●ヨーロッパに比べ、日本には「もろさが美しさ」というところがある。経済的開発と、美しい環境を保ち、更に美しくすることはなかなか共存しにくい。

●歌は、伝統や血の通いを超えて人を強く結び付ける。それが音楽の強さ、素晴らしさだと思う。

●日本では、美術館や音楽会場はみんな標を正して鑑賞するという意識が強すぎる。海外では市民の遊び場、社交場という認識が強い。そういう場所が日本にも欲しい。

●ドイツのマイセンの職人達は、街中でなく自然の素晴らしいところを生活のベースにし、アイディアや色彩感覚を

常に育てていけるように考えている。物を作る人間にとって必要なことである。

### 意見交換での主な話題

#### 【森の火葬場】

●ストックホルムに「森の火葬場」というところがある。墓石の前は花畑のようになり、日曜にはピクニックに来て遊ぶ。死を悲しむのではなく、死者と対話をしたという思想。火葬場は死者とのいい関係を持てる場であってほしい。

●アメリカの共同墓地「メモリアルパーク」も死者を忘れないための墓地。墓石にもカラーの鮮やかな写真を飾っている。

●富山には宗教の影響を受けたいいものではなく、うまく新しいものを取り入れることを考えていかなければいけない。

#### 【富山の家のライフスタイル】

●富山の若い世代の人は、大きな家で豊かさを感じて生活しているのか。富山の個性としてのライフスタイルや文化を作らなくてはいけないのでは。

●利便性志向の中で、ゆったりした空間で生活するライフスタイルのイメージを、住んでいる人が描くことができない。

いのが問題。

●一元化された価値観が優先しすぎている。地域に根差したライフスタイルのスタンダードが必要。その土地の環境と黒親を大事にし、そこで生活するためにどうすべきかを認識することが大事。

#### 【富山の食文化】

●富山の魚がおいしいのは知っており、レストランで出る富山料理は知っているが、本当に富山の人が食べている文化というのは何かが分からない。

●富山県に帰って来て、是非食べたい料理があるのは素晴らしいこと。昆布メとかかぶら寿司とか。他県に似たものはあっても、富山のものにはない、というものを、全国区になつたますの寿しのように、イメージを大切にすると受けるのでは。

#### 【教育・人材育成について】

●富山県は教育県だが、世界的な教育機関があるかという疑問。富山県だけでなく、北陸全体で押し上げていけばいい。

●日本全体として見ても、アジアの人材育成と、その中で日本のウエイトをどのように考えていくかが重要なポイント。

●国際ビジネスの世界では修士・博士を持っていないと対等に話ができない。



企業側がどういう人を採用するのかにもかかってくる。これからの国際社会でリーダーシップをとる人間を作り上げていかなければ。

●大学院教育に比重が移り、専門職大学院や海外の研究所の拠点も数多く作られているが、教育のための拠点やネットワーク形成は非常に遅れている。

●富山県に本拠を置く企業が実際の必要性で展開している部分にオープンなシステムを加え、教育機関と連携をとるようなことがあれば大きな突破口になるのではないかと。



世界で一番いのちの短い国



NPO 法人 宇田船地球号 代表  
山本 敏晴氏

生徒の感想

三年 大谷 遙

平均寿命が三十五歳というシエラレオネの実情を聞くとなんかされることばかりだった。  
中でも印象に残ったのが、精霊信仰に基づいて行われている儀式の一つが、乳児に高率で死をもたらす原因になっていることである。そして、病に冒された人が頼っていくのが折祷師の元であること。

乳児死亡率、妊産婦死亡率、世界最悪。五歳になるまでに子供の三分の一が死んでいく。そんな西アフリカのシエラレオネで、国境なき医師団の一員として活動した山本氏のお話は、「未来にずっと続けることができる、本当に意味のある国際協力」とは何かを問いかけるものだった。

山本さんは医療援助活動の現場で、医療を施すだけでなく持続的な医療レベルを継続するためにスタッフを教育してきた。しかし、いったん戦乱状態になれば、育てたスタッフは殺され、建てた病院は壊されてしまう。また、国の経済力がなければ病院を維持していくこともできない。

政治・経済の安定、教育の普及、医療・公衆衛生の改善、環境問題への配慮等々難問は山積する。私達にできることはなんだろう。まずは関心を持つことである。「世界に目を向けた人の育成」のため山本氏は世界を飛び回っている。



私達は病気にしかかかると医者へ行き、処方された薬で体を治す。医師の診断を受けて安心感を得られることも、治癒に少なからず影響していると思う。しかし、シエラレオネのように折祷師を頼っている人の所へ西洋医学を持ち込んで、人によっては不安感が募る場合もあるだろう。

医療面でのように、異文化を持ち込まずざるを得ないような国際協力を進めていくのはとても困難であると思う。しかし、ここで私達一般市民が、目を逸らせば、その国を見放すことになる。愛情の裏返しは憎悪ではなく無関心。その言葉が深く響いた。

富山西高等学校

雑誌「クロワッサン」の「一番大事なものは何か」というアンケートで、「健康」「家族」が上位になると思っていたが、実際には「生き方」が一位になっていた。世の中の人々は、どう生きたらいいのかが知りたがっている。

「生き方」を知っていたからである。富山の売薬が三百年間語り続けた秘訣は、「七葉の教え」である。「薬すれば薬が邪魔して薬ならず、薬せぬ薬がはるか薬薬。ちよつと薬をする人と、ちよつと努力をする人の差は、八年も経つと十倍になってしまう。」

今までは所属価値だったが、これからは存在価値(専門価値)が重要になる。成功の価値は立身出世から個業繁栄へ、自分の好きなことに人生をかけることができることが、一番の成功である。能力は、技術・知識・心構えからなる。

心構えは毎朝〇(ゼロ)からのスタートである。それを、どう磨くかが大切。早起き、歩く、しつけの三原則(あいさつ、返事、後始末)が大事なことに、いさつ人間に不幸なし」と言われる。

笑顔は最大の集客力である。プラス思考でものを考えることが必要である。一所懸命に取り組んでいけば世間が支持してくれる。

「人生は今日が始まり。過去と他人は変えられない。未来と自分は変えられる。」

講師は、演題の向こうで講演をするばかりでなく、積極的に舞台を動き回っている説明をするなど、活動的な講演会であったので生徒は引きつけられていた。

積極的に生きる  
—人生は今日が始まり—



ヒューマンスキル研究所 所長  
田中 真澄氏

生徒の感想

一年 野本 美穂

私は始め、題からしてとても難しいような話だなと思っていました。ところが、話されていた内容は、基本的なことでした。基本的なことなのに私には知らないことが多くて驚きました。知っていたことがらの中にもたくさん重要な意味があり、それらが自分の知識となったので聞いていて本当に良かったと思いました。

その中で特に印象に残っているのは、「成功は、チャンスと準備であり、少しの努力で変わる」ということです。

私は、今まであまり努力をしたことがありませんでした。しかし、計算式を含めた田中先生の話聞いていてうちに、今まで私はずいぶん損をしているのではないかと思ひ、それと同時にこれからこつこつと努力していこうと思ひました。

その他にも、人生観や仕事観、能力観など、たくさんのお話を教えてもらいました。本当に自分のためになるものばかりで、聞いていて本当によかったです。

また来年もこのような素晴らしい講演があるといいなと思ひました。そして、このようなすばらしい講演を富山西高等学校の伝統にしていってほしいと思ひました。

生のための会



高度情報化社会を生きる



前インテック 代表取締役社長  
中尾 哲雄氏

現代人の生活は「IT革命によってどんどん変わってきた。確かにネットワークを使って多くの情報を瞬時にやりとりするなど、私たちの生活は便利になってきたが、人と人の絆が薄れてきたように思われる。

現代の高度情報化社会では、パソコンの前では心が安定するが、人との本当の話し合いができない若者がいる。パソコンに向き合う時間、それと同じ時間を読書や友人との会話に費やすべきである。人との会話を通じて絆が生まれ、絆があるから人は社会の中で生きていけるのである。今の若者は、コンピュータに向き合うだけで、夢を持っていない。夢を持つべきである。「夢こそ人を輝かせ、人を大きくし、人生を豊かにしてくれる。」感動をたくさん積み重ねて、人生が豊かになるのである。人は多くの人に助けられて生きていく。パソコンやインターネットの普及がさらに進んでいくと、このことを忘れてがちになる。「人との絆」を大切に、心豊かに生きていくべきである。

生徒の感想  
二年 高嶋 幸緒  
高度情報化の講演と聞いて、自分にはあまり関係がないと思っただけで、ケータイやパソコンを使っているのと関係のある話だと思いません。講演の初めに、野球の話という課題と違ったことから始められ、聴く人の心をつかむところがすごいと思いました。

私にとって、ケータイやパソコンは今やなくてはならないものです。特にケータイはどこでも手軽に使えるので、なくなるというライラシイです。先生も、現代人はケータイ、パソコンの前にいないというライラシイという話を話していました。確かにその通りだと思いました。自分の家族を見ていても、常にパソコンの前に誰か座っています。こうしたことを防ぐために、私も先生が話していたように、人と人との会話（メールなどではなく顔と向かって）や読書をすべきだと思いました。

最後の「夢や目標が人を輝かせ、大きくする。つつむていると希望が見えない。」という言葉に私はぐっとくるものがありました。私はまだはっきりとした将来したいことが決まっていないうので、下を向いている時もあるような気がします。早くしっかりと将来したいことを決めるために、下を向かないように、いろんなことにぶつかって、いろいろなことを経験しました。

# 高校講演

命に恋して



作家  
畑 正憲氏

講演では「命」をテーマとしたお話や動物たちとのふれあいによって生まれた考えを聞かせていただいた。骨粗しょう症の犬の例えを用いた話では、元気づけ、ほめて食べさせるといったことを話された。勉強についてもそれが当てはまるようで、興味のあることが楽しく感じることであり、感激し物事にぶつかっていくことにより人間は成長する。「数学が役に立たない」といった意見に対して、ムツゴロウさんは「一見役に立たないようなものは、実は役に立つ。初めから嫌いなならないで。」現代は自分の若い頃に比べ学び易い。このことは逆に人間の頭をだめにする。」と言われました。

動物は、人間に「死」について教えてくれる。身近な生き物の死を経験して、すべてのものの「命」の大切さが解ると話された。

生徒の感想  
二年 松本 美聡  
今回私達は高岡南高等学校創立10周年の記念講演として、「ムツゴロウさん」の愛称で多くの人に知られている畑正憲さんの「命に恋して」という講演を聴くことができました。

私はムツゴロウさんをテレビで見ただけでしたが、実物ほどのような方だろうと、講演をとても楽しみにしていました。ムツゴロウさんが体育館に入ってきた時、テレビで見たまんま、とても優しい方だなあと思いました。

ムツゴロウさんは、動物に対する自分の愛情や、時には動物の歯さまねなども交えながら楽しく話してくださいました。私がムツゴロウさんの講演で印象に残ったのは、最後に生徒からの質問に答えてくださった時の話です。生徒から「ムツゴロウさんの元気の秘訣は何か」「最近熊が出没する地域があり、その熊が射殺されたことについてどう思うか」など多くの質問が出されました。いろいろな質問に快く答えてくださったムツゴロウさんは、ペットをなくし飼い主がその悲しさで鬱になってしまうという「ペットロス症候群」の話をしてくださいました。ムツゴロウさんは、「私達は動物が死んでからの方がその大切さが解る。ペットが死んでしまっても、次のペットを飼えば今までもっと大切にすることができると。死ぬことを怖がってはいけません。おっしゃいました。」

また、元気の秘訣については「生きることを楽しまないため。私は今生きていくのがとても楽しい。みんなも勉強でも遊びでも楽しいと思える何かがあつて欲しい」と、おっしゃいました。このことは私達みんなにつながることであり、これからもこの講演で学んだことを忘れないでいきたいと思えます。

# 「夢の卵」育成事業



この事業は、子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらうこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして子どもたちが「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16年度新たに実施したものです。

6月から7月上旬にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、将来の夢を書いた作文を募集し、その中から国内の第一人者に3日間の短期入門をする7名の児童・生徒を選びました。

今回は、秋以降に短期入門をした、池野元はるかさんと長田充弘さんの入門の様子を紹介します。

## 「作詞・作曲家」

池野元はるかさん（舟橋小学校6年）

入門先：平松愛理氏（シンガーソングライター）

1日目 9月26日（日）

太閤山ランドで開催された平松さんのライブとそのリハーサルを見学。平松さんの、一つ一つの「音」に対するチェックの厳しさに、とても驚いた様子でした。

2日目 10月21日（木）

東京のスタジオで、スタッフの皆さんに色々とお話を伺った後、平松さんのライブツアーのリハーサルを見学。平松さんは、はるかさんの質問に丁寧に答えて下さいました。

3日目 10月30日（土）

最初に、専門学校ESPミュージカルアカデミーを見学して、先生から多くのアドバイスをもらいました。その後、平松さんのコンサートに感動し、夢に向かって進む気持ちを新たにしました。

あこがれの平松さんと記念撮影



### 【体験記より】

東京でのライブへ行ってきました。何度も使うこの言葉、「すごい!」。平松さんにぴったりの言葉だと思います。私もあんな風に・・・と強く心に残りました。歌は強く人を勇気づけることができるものだと思います。「人の心にずっと残る」そんな曲を作りたいです。

## 「古生物学者」

長田充弘さん（中田中学校1年）

入門先：満田隆士氏（福井県立恐竜博物館館長）

1日目 12月25日（土）

恐竜博物館の隅々まで案内してもらい、分かりやすく説明をしていただきました。

2日目 12月26日（日）

午前中は、化石クリーニングの体験。午後は資料や標本の整理をしました。その後、満田館長とお話する機会がありました。

3日目 12月27日（月）

主任研究員の後藤さんから、恐竜研究や化石を発見した時の話を聞き、改めて夢の実現に向けて強い決意を抱いたようです。

3本指は恐竜の足跡の形なのだ(満田館長と)



### 【体験記より】

「好き」や「知っている」だけでは夢は実現できないし、職業とするにはあらゆる分野を理解すること、そして何よりも体力が必要である。やっぱり古生物学者になる。好きなことをしなければならぬ。これが僕の決意です。



## 富山県教育記念館

# 展示施設リニューアルオープン！

平成十六年の十二月から行ってきた二階と三階の展示室の改修がこのたび終わり、平成十七年の四月からリニューアルオープンいたします。ここでは、新しくなった展示施設を紹介します。

### 教育記念室

とやま教育のあゆみ 二階展示室

二階の教育記念室では、江戸時代以降の富山県教育のあゆみを時代別に展示しています。今回の改修では、二

宮金次郎の報徳教育の

コーナーや富山県教育に関する歴史年表を新設したほか、パソコン検索コーナーや映像コーナーなどの視聴覚機器を使って、楽しく学べるように工夫しました。パソコン検索コーナーでは、江戸時代の藩校や寺子屋、富山県



新設になった二宮金次郎のコーナー



「新しい教育」を映像で紹介！

分県の歴史、米騒動、学童疎開、また、全国から注目を集めている「社会に学ぶ十四歳の挑戦」など、とやまの教育史を語る上で欠かせない出来事を三十二の資料にまとめ、紹介しています。映像コーナーでは、「総合的な学習の時間」を使ってまとめた定塚小学校の歴史や当財団で取り組んでいる事業など、「今の教育・新しい教育」を映像で紹介しています。

江戸・明治・大正・昭和・平成と繰り広げる「とやま教育時代絵巻」をゆっくりご堪能ください。

### 郷土先賢室

とやまの誇る人たち

三階展示室

三階郷土先賢室では、富山県発展の大きな歩の礎を築かれた実業家や政治家、教育家、文化芸術家など、県内で顕著な業績をあげられた方々を紹介しています。当記念館の七名の専門委員の先生方が、調査や研究、資料収集などを行いました。今回の改修では、美しいとやまの風土を写したフォトディスプレイを取り入れ室内を明るくしたり、遺品や業績の数々を展示するコルトンや展示ケースを一新したりして、見やすい工夫をしました。また二階同様、郷土の発展に情熱を燃やし、献身的に尽くされた過去の顕彰者をパソコンで検索できるようにしています。



コルトンや展示ケースを一新



過去の顕彰者の検索ができます

資料もより充実し、パソコン検索コーナーや映像コーナーが新設になって、きっと「富山県教育の歴史」を身近に感じていただけることでしょう。もっと調べてみたいと思われたら、ぜひ当記念館へお出かけください。職員一同、心からお待ちしております。

## 1 人づくりに関する研究調査及び普及啓発事業

### ①立山倶楽部

国際的に活躍されている方々から様々な提言をいただき、創造的な施策に反映させます。

### ②とやまファン倶楽部

富山県をこよなく愛し、全国から富山県を応援している方々のヒューマンネットワークづくりを推進します。

### ③「学ぼう！ふるさと未来」支援（仮称） **新規**

小中学生が「ふるさとに学び、ふるさととともに生きる」地域活動を支援します。

### ④「自然に支えられたとやまの教育」調査研究 **新規**

富山の自然が支えた「とやまの教育」の現在までの歩みを調査収集します。

### ⑤その他

高校生のための講演会開催への助成や、とやま賞受賞者、地域づくりや生涯学習などに関わる人材のデータベース整備を行います。

## 2 元気で創造性豊かな子供の育成事業

### ①「夢の卵」育成

大きな夢に向かって努力し、世界の発展に貢献できる子どもたちを育成するため、子どもたちから「夢の卵（将来の夢）」を公募し、優秀者は各分野の第一人者のもとへ派遣します。

### ②きらめき未来塾

子どもたちの発想力や創造力、ユーモアのセンスなど多様な可能性を引き出すため、各分野の第一人者を講師に招いて4つの道場を開催します。

右脳活用道場…異能開発を促進し、「柔軟な発想力」「創造力」を育成する。

思考道場…「自分で考える力」「柔軟な思考力」を育成する。

ディベート道場…様々な角度から議論することを通して、多面的なものの見方や考え方を育て、併せて自己表現力を高める。

お笑い道場…話術やユーモアのセンスを身につけ、ウィットに富む自己表現力を高める。

### ③仕事場拝見

子どもたちが、最先端の科学技術の仕事場で働く研究者の息吹きに触れ、自分の将来の夢やこれからの生き方を考えてもらいます。

## 3 奨励事業

学術研究、発明発見、芸術文化、スポーツ等の分野において優れた業績をあげた個人または団体の活動を奨励するため「とやま賞」を贈呈するとともに、子どもたちに科学の世界への夢を広げてもらうための講演会を開催します。

## 4 地域づくり事業

### 「元気とやま」創造活動推進事業

元気活動実践者の育成及び支援を行い、そのネットワーク作りを進めます。「元気とやま」創造活動推進会議（仮称）や、リレー講座等を開催します。

## 5 教育の歴史と文化に関する文献の収集・保管・展示

- ①特別展開催
  - ②恒例展開催
  - ③記念館資料収集
- 詳細は11ページをご覧ください。

富山の教育の歴史や文化に関する文献や資料の収集及び整理を行い、各種教育展示等で利用します。

## 6 調査研究普及事業

### ノーベル頭脳推進事業

ノーベル賞受賞者等世界的頭脳と接する機会を県民に提供することにより、世界的に活躍できる人材の育成を図ります。

### **新規** 高校生科学セミナーの実施

数理科学の分野で世界的に活躍する人材を育成するため、各専門分野の第一線で活躍されている科学者・数学者を招聘し、高校生を対象に最先端の研究に関する講義とひざを交えた交流会を行います。





平成17年度

# 富山県教育記念館 展示 スケジュール

(1階多目的ギャラリー)

## 特別展

### 「とやまの教育史にみる主なできごと展」

4月18日(月)～5月22日(日)

1632年に肝煎小兵衛が「聞名寺」(現・八尾町)で寺子屋を開いてからの「とやまの教育史」をパネル展示します。現在話題になっている「稲むらの火」が収められた昭和初期の教科書や、県内に現存する6体の「青い目の人形」など多数の実物も展示します。

### 「マセマティカル・ワールド展」

7月16日(土)～9月11日(日)

秋山仁先生が中心となって開発された「見たり、さわったり、体験したりできる数学教材」をフロア一っぱいに展示します。マセマティカル(算数、数学に関する)・ワールド(不思議で魅力いっぱいの世界)を体験してください。

## 恒例展

- ・第24回富山県版造形教育作品展  
5月28日(土)～6月23日(木)
- ・第10回富山県自然保護協会写真展  
6月30日(木)～7月12日(火)
- ・第2回子どもの目、自然不思議発見写真展  
9月24日(土)～10月16日(日)
- ・第21回教職員厚生会旧友富山支部会員作品展  
10月21日(金)～10月30日(日)
- ・第23回みんながんばってます展  
11月4日(金)～11月20日(日)
- ・第17回富山県造形教育作品展  
11月25日(金)～12月9日(金)
- ・第20回自然から学ぶ写真展  
平成18年1月5日(木)～1月17日(火)
- ・第16回富山県中学校美術展  
2月12日(日)～2月27日(月)
- ・富山大学学生卒業記念書展  
3月2日(木)～3月12日(日)

皆様のご来館をお待ちしております。

## (財)富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1  
富山県教育記念館2F

TEL. 076 (444) 2000

FAX. 076 (444) 2001

TEL. 076 (444) 2770 (記念館)

FAX. 076 (444) 2771 (記念館)



## 賛助会員の募集!

富山県ひとづくり財団では、広く財団の目的に賛同される個人、法人の方々に賛助会員としてご協力をいただきたいと考えております。多くの皆様のご賛同をお願いいたします。

### ◆年会費

法人会員 年一口 30,000円

個人会員 年一口 3,000円

### ◆特典

機関誌の定期配布(年2回)  
セミナー、イベント等の開催案内  
各種報告書等の配布  
県の情報誌、冊子等の配布

### ◆申込方法

賛助会員入会ご希望の方は財団へご連絡願います。所定の用紙をお送りいたします。



財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階  
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001  
e-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp

平成17年3月発行